

株式会社帝国ホテル 2024年3月期決算説明資料



IMPERIAL HOTEL

2024年5月10日 株式会社帝国ホテル（コード番号 9708 東証スタンダード）



目次

連結経営成績

連結損益計算書

セグメント別

部門別実績

連結貸借対照表

連結キャッシュ・フロー計算書

連結業績予想

株主還元

中長期経営計画2036

今後の見通し

企業情報

連結経営成績



IMPERIAL HOTEL

単位（百万円）（注）以降の記載金額は百万円未満の端数を切捨てて表示しております。

	2024年3月期	2023年3月期	増減(金額)	増減(%)
売上高	53,335	43,772	9,562	21.8
EBITDA ※1	5,813	4,365	1,448	33.2
営業利益	2,839	348	2,491	715.9
経常利益	3,296	1,652	1,643	99.4
親会社株主に帰属する当期純利益	3,377	1,951	1,425	73.1
1株当たり 当期純利益 ※2	円 銭 28.46	円 銭 16.45	円 銭 12.01	71.8

※1 EBITDAとは、経常利益に支払利息及び減価償却費を加えた利益指標であり、当社は「中長期経営計画2036」において同指標を定量目標として掲げております。

※2 当社は2023年10月1日付で、普通株式1株につき2株に分割しております。これに伴い、2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

□ホテル・観光業界におきましては、国内観光需要や円安を背景としたインバウンド消費が伸長したことに加え、法人需要が回復するなど、改善傾向が継続いたしました。

□当社グループにおきましては「中長期経営計画2036」のフェーズIの最終年度として国内観光需要やインバウンド需要を取り込むべく、高品質、高付加価値の商品やサービスの提供に努めるなど売上げと利益の増進に努めてまいりました。

連結損益計算書

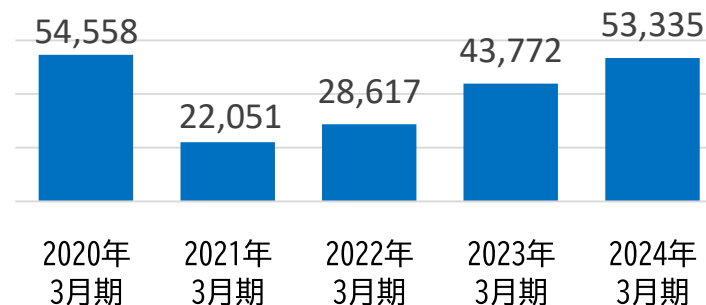


IMPERIAL HOTEL

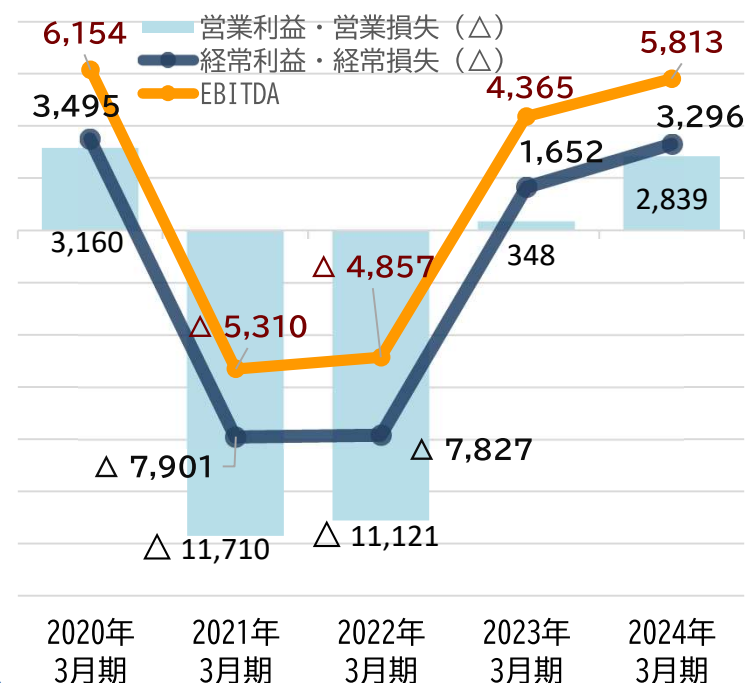
単位 (百万円)

	2024年3月期	2023年3月期	増減	増減(%)
売上高	53,335	43,772	9,562	21.8
材料費	11,033	9,552	1,481	15.5
売上総利益	42,301	34,219	8,081	23.6
販売費及び一般管理費	39,461	33,871	5,589	16.5
営業利益	2,839	348	2,491	715.9
営業外収益	463	1,307	△843	△64.5
営業外費用	7	2	4	178.7
経常利益	3,296	1,652	1,643	99.4
当期純利益	3,377	1,951	1,425	73.1
親会社株主に帰属する当期純利益	3,377	1,951	1,425	73.1
EBITDA	5,813	4,365	1,448	33.2

売上高



営業利益・経常利益・EBITDA



セグメント別



IMPERIAL HOTEL

単位（百万円）

		2024年3月期	2023年3月期	増減	増減(%)
ホテル事業	売上高	51,125	40,581	10,544	26.0
	セグメント利益	4,855	904	3,951	437.0
不動産賃貸事業	売上高	2,219	3,200	△981	△30.7
	セグメント利益	408	1,360	△951	△70.0
調整額※1	売上高	△9	△9	—	—
	セグメント利益	△2,424	△1,916	△507	—
連結財務諸表 計上額 ※2	売上高	53,335	43,772	9,562	21.8
	セグメント利益	2,839	348	2,491	715.9

- ※1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- ※2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

部門別実績



IMPERIAL HOTEL

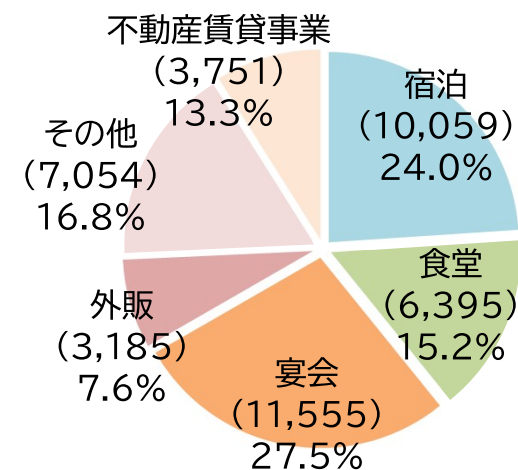
帝国ホテル本社

単位（百万円）

		2023年度	2022年度	増減	増減(%)
ホテル事業	宿泊	10,059	6,802	3,257	47.9%
	食堂	6,395	5,751	644	11.2%
	宴会	11,555	9,252	2,302	24.9%
	外販	3,185	3,320	△134	△4.1%
	その他	7,054	5,419	1,635	30.2%
不動産賃貸事業		3,751	4,673	△921	△19.7%
売上高合計		42,003	35,220	6,782	19.3%



売上構成比



- 宿泊は、会員顧客の継続的な利用に加え、ビジネス・レジャー需要が回復し、円安に伴いインバウンド需要が増加した結果、稼働率は前期比8.6ポイント増の64.8%となり、一室単価も引き続き高単価販売に努めた結果、前期比31.4%増の63,058円となりました。サービスアパートメントは、短期滞在需要を取り込み繁閑に合わせた販売施策を実施したことから、稼働率は65.1%となりました。その結果、売上高は前期比47.9%増の100億59百万円となりました。
- 食堂は、記録的な酷暑による外食需要低下の影響を受けたものの『インペリアルバイキング サール』のリニューアルや、慶事、歓送迎会需要の獲得に注力した結果、売上増となりました。
- 宴会は、一般宴会は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う法人需要の回復により、飲食を伴う宴会を中心に大型宴会の件数や人数が増加し、売上増となりました。婚礼は件数、単価が減少したものの、列席者の招待促進等に注力し人数が増加したことから売上増となりました。

部門別実績



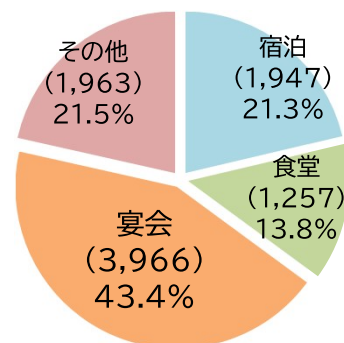
IMPERIAL HOTEL

帝国ホテル 大阪

単位（百万円）

	2023年度	2022年度	増減	増減(%)
宿泊	1,947	1,117	829	74.3
食堂	1,257	1,022	234	22.9
宴会	3,966	2,868	1,098	38.3
その他	1,963	1,637	325	19.9
売上高合計	9,134	6,645	2,488	37.4

売上構成比



- 宿泊は、インバウンド需要や国内外の大型団体を安定的に受注した結果、稼働率は前期比18.1ポイント増の49.5%となりました。一室単価も継続的な高単価販売を実施した結果、10.2%増の28,442円となり売上増となりました。
- 食堂は、個人及び法人利用の回復と「莓スイーツバイキング」を始めとする企画商品の販売が好調であった結果、売上増となりました。
- 宴会は、立食形式の宴会や大型宴会の受注が増え、婚礼もコロナ禍の反動により件数、人数、単価ともに増加したことから売上増となりました。

上高地帝国ホテル

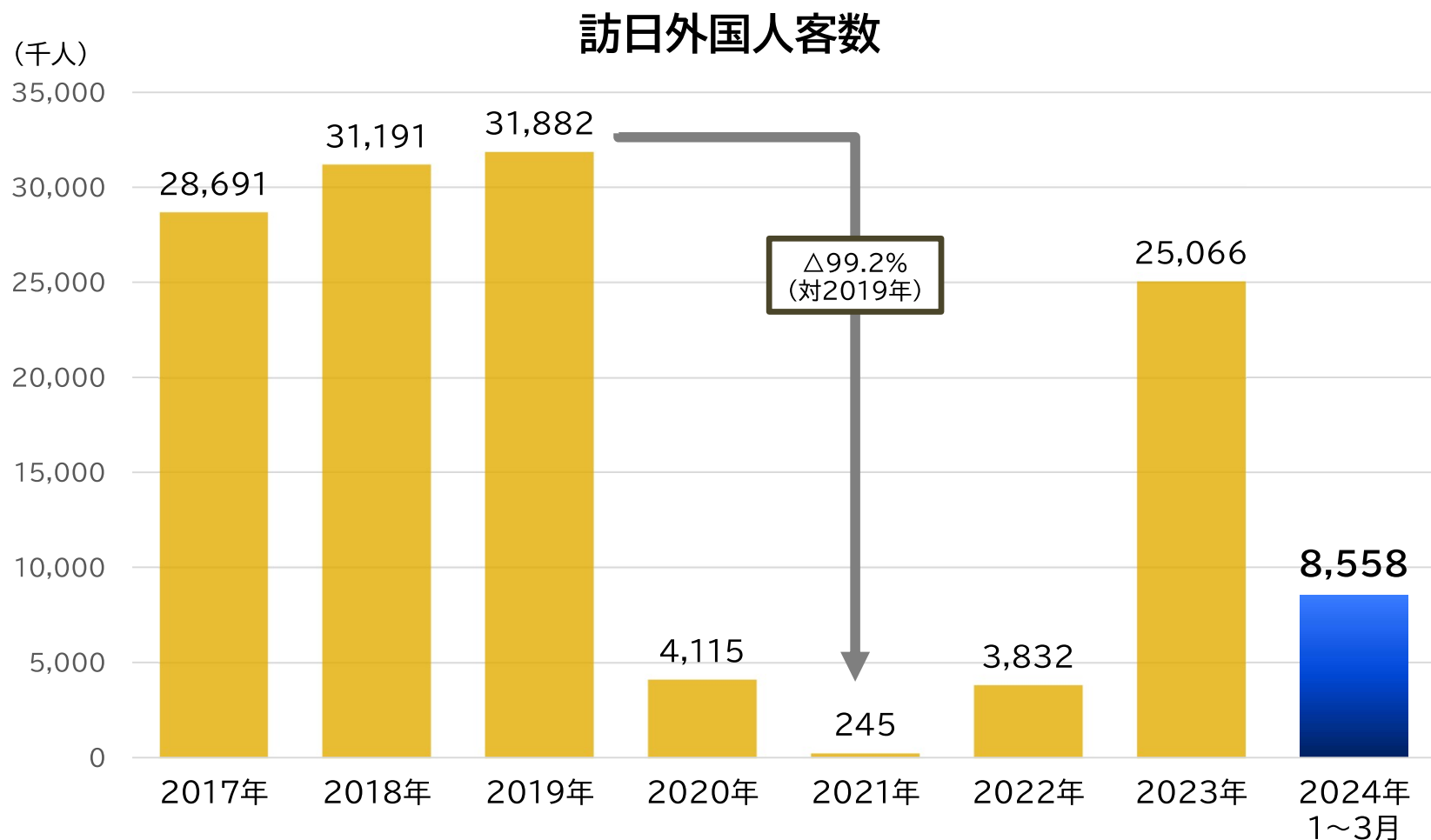
単位（百万円）

	2023年度	2022年度	増減	増減(%)
売上高合計	1,686	1,480	205	13.9

4月に開業90周年を迎え、新たなイベントや継続的な高単価販売を実施したことにより、客室稼働率は前期比5.0ポイント増の93.7%と高い水準となり、食堂、売店についても記念商品を販売し、高単価施策を実施したことから、売上増となりました。



部門別実績補足 (訪日外国人客数の状況)

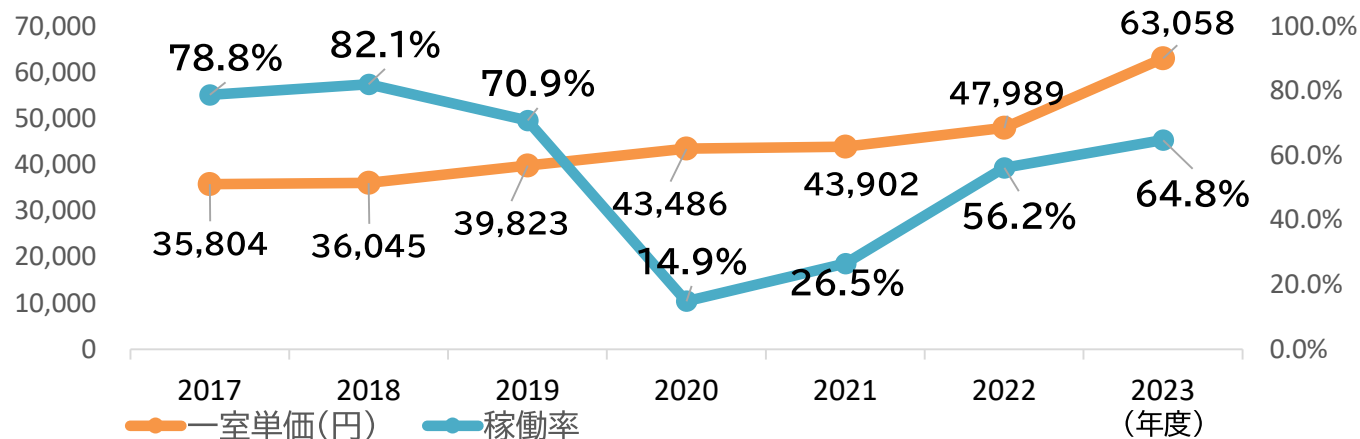


部門別実績補足（宿泊一室単価・稼働率）

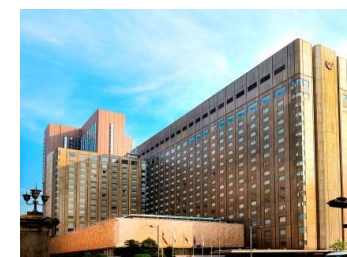


IMPERIAL HOTEL

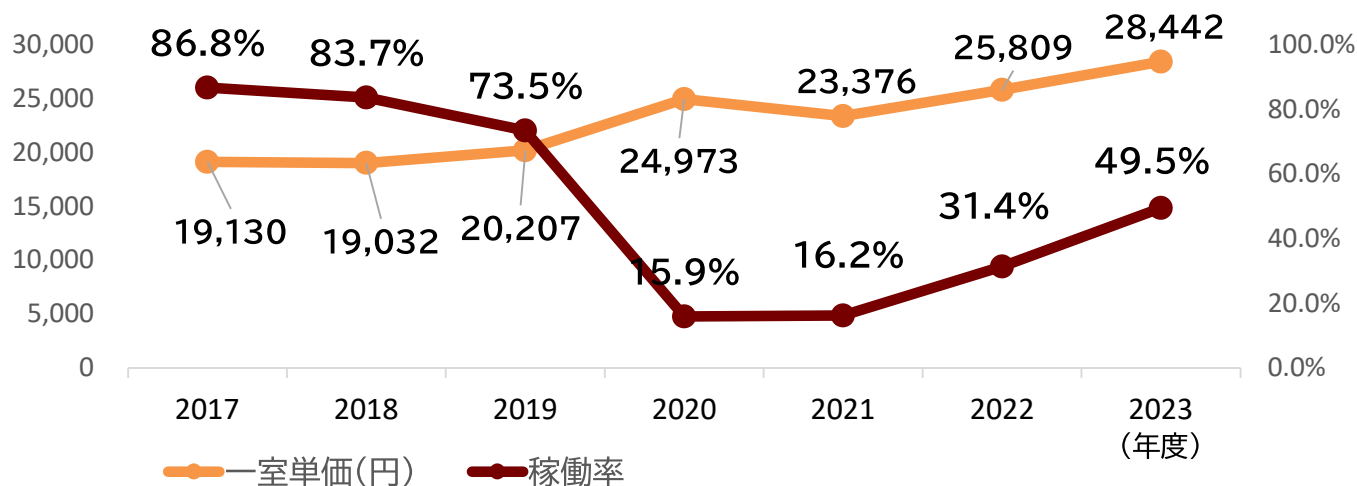
帝国ホテル 東京



※2021年度以降の宿泊一室単価並びに稼働率にはサービスアパートメントを含めておりません。



帝国ホテル 大阪



連結貸借対照表



IMPERIAL HOTEL

単位（百万円）

資産	2024年3月31日	2023年3月31日	前期末比	前期末比(%)	主な増減要因
流動資産合計	35,606	34,807	798	2.3	売掛金の増加
固定資産合計	30,100	26,935	3,164	11.7	有形固定資産の増加
資産合計	65,706	61,743	3,963	6.4	
負債	2024年3月31日	2023年3月31日	前期末比	前期末比(%)	主な増減要因
流動負債合計	12,394	10,628	1,765	16.6	未払金の増加
固定負債合計	10,276	11,114	△838	△7.5	建替関連損失引当金の減少
負債合計	22,670	21,743	927	4.3	
純資産合計	43,036	40,000	3,036	7.6	親会社株主に帰属する当期純利益の計上
負債・純資産合計	65,706	61,743	3,963	6.4	

自己資本比率	2024年3月31日	2023年3月31日	2022年3月31日
	65.5%	64.8%	64.2%

連結キャッシュ・フロー計算書



IMPERIAL HOTEL

2023年4月1日から2024年3月31日まで

単位 (百万円)

	2023年度	2022年度	増減	増減(%)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,201	3,938	263	6.7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,073	△ 1,584	△ 1,489	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 718	△ 240	△ 477	—
現金及び現金同等物の期首残高	27,329	25,215	2,113	8.4
現金及び現金同等物の期末残高	27,738	27,329	409	1.5

連結業績予想



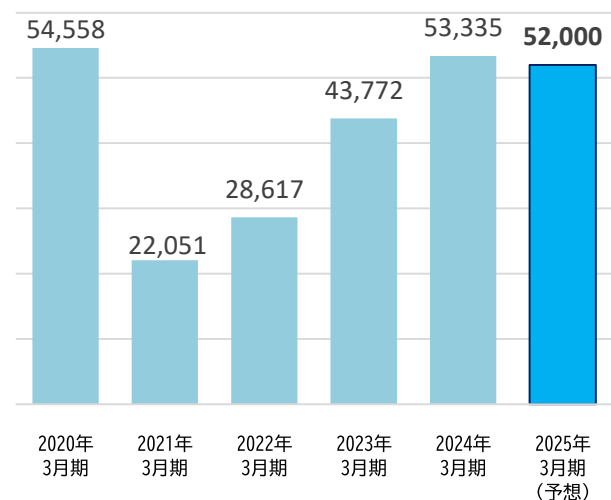
IMPERIAL HOTEL

単位(百万円)

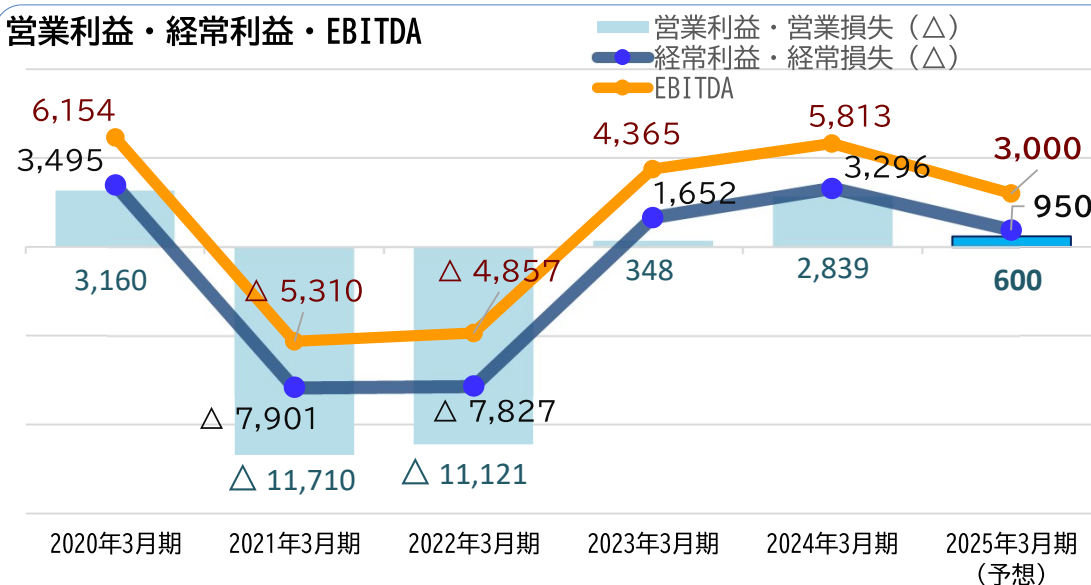
	2024年 3月期	2025年3月期(予想)			
		第2四半期(累計)		通期	
売上高	53,335	24,000	△1.0%	52,000	△2.5%
営業利益	2,839	△900	—	600	△78.9%
経常利益	3,296	△700	—	950	△71.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,377	△750	—	900	△73.3%
1株あたり当期純利益	28円46銭	△6円32銭		7円59銭	

%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率

売上高



営業利益・経常利益・EBITDA



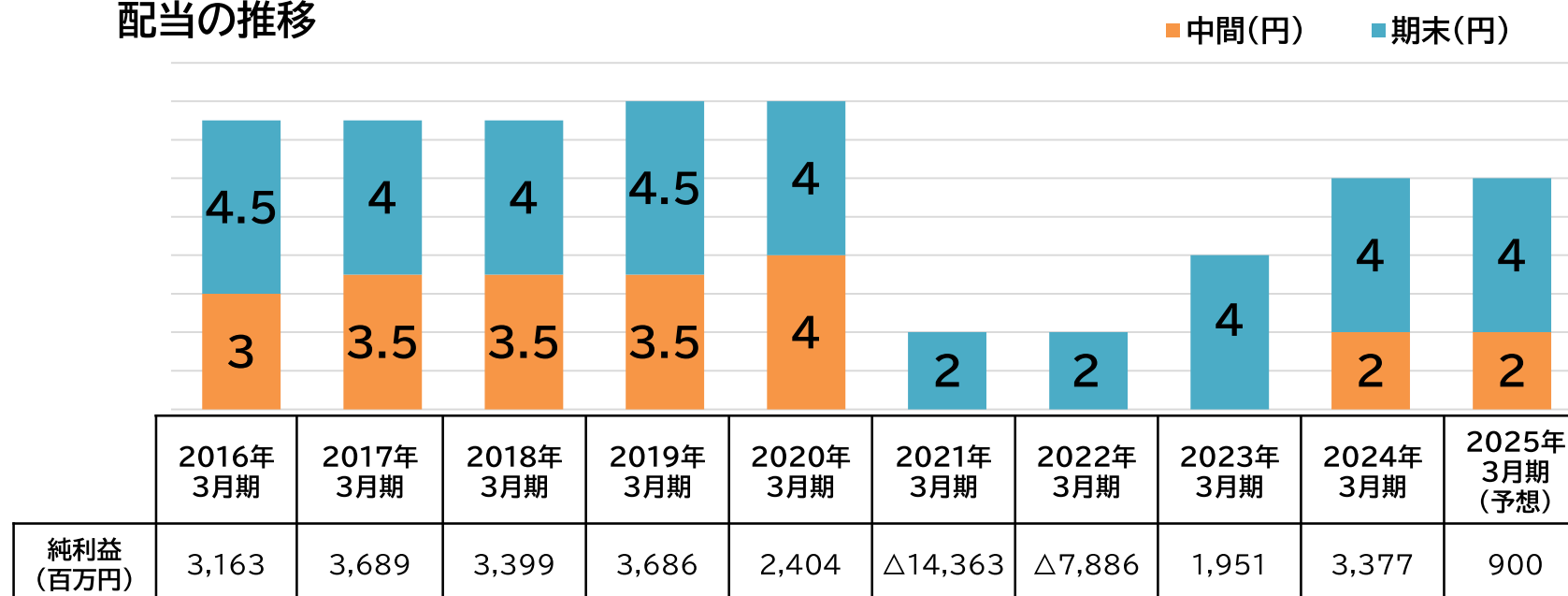
配当

当社は、長期に亘る安定的な経営基盤の確保による安定配当の継続を基本方針とし、株主の皆様への利益還元に努めてまいりたいと考えております。

2024年3月期は、業績並びに当社の基本方針を勘案し、株主の皆様の日頃のご支援にお応えすべく、期末配当を4円（中間配当2円と合わせて年間配当6円）とさせていただきますたく存じます。

また、中長期経営計画2036のフェーズⅡを迎える2025年3月期の配当予想につきましては、帝国ホテル東京の事業規模の縮小に伴う売上げの減少が予測されますが、当社の将来に向けたストーリーや収益性の向上に対して高まる株主の皆様の期待にお応えするため、普通配当を1株につき6円（中間配当2円・期末配当4円）といたします。

配当の推移



株主優待制度

株主のみなさまの日頃からのご支援に感謝するとともに、当社商品やサービスに触れていただくことで当社事業へのご理解を一層深めていただくことと、当社株式への投資の魅力を高め、より多くのみなさまに中長期的に保有していただくことを目的に株主優待制度を新設いたしました。

対象となる株主様

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上保有の株主様を対象といたし、年1回、当社の定時株主総会終了後（6月下旬）にお送りする「定時株主総会決議通知」に同封して発送する予定です。

株主優待の内容

保有株式数	優待内容（ホテルご利用券）	
	継続保有年数5年未満の株主様	長期保有者優遇制度 継続保有年数5年以上の株主様
100株以上300株未満	1,000円（1,000円券1枚）	
300株以上1,000株未満	3,000円（1,000円券3枚）	左記に+1,000円（1,000円券1枚）
1,000株以上2,000株未満	10,000円（5,000円券2枚）	左記に+5,000円（5,000円券1枚）
2,000株以上10,000株未満	25,000円（5,000円券5枚）	左記に+15,000円（5,000円券3枚）
10,000株以上	25,000円（5,000円券5枚） 宿泊1泊招待券	左記に+15,000円（5,000円券3枚）

※対象店舗等の詳細は弊社ホームページ（<https://www.imperialhotel.co.jp/financial/incentives>）をご覧ください。

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

概要

ビジョン - 目指すべき姿 - 創業の精神を継ぐ「日本を代表するホテル」として、人を原点とする帝国ホテルブランドをより進化させる。 また、いかなる経営環境下においても企業継続できる体制を構築し、来る2040年の開業150周年を目指す。		
フェーズⅠ 現行営業期間 (2022~2023年度) サービスの最適化・見直しと更なる向上 ウィズ/アフターコロナ期の外部環境変化への柔軟な対応 ⇒ <u>コロナ禍からの早期回復を目指す</u>	フェーズⅡ タワー館建て替え期間(2024~2030年度) 建て替え中の営業継続と雇用の確保 東京事業所建て替えに伴う営業スペースや要員数変動への対応 ⇒ <u>営業継続と雇用確保を前提に建て替え計画を着実に遂行</u>	フェーズⅢ 本館建て替え期間 (2031~2036年度) サービスの継承・更なる新たな挑戦 日比谷本館の万全な体制での開業に向けて ⇒ <u>日本を代表するホテルとして更なる飛躍を目指す</u>
●2022年度 京都建設工事開始	★2026年度 京都開業 ★2029年度 中地区宴会場・ホテル竣工 ★2030年度 新タワー館竣工 ●2024年度 現タワー館解体・新タワー館建築	●2031年度 現本館解体・新本館建築
ビジョン - 基本戦略 - ① グランドホテルの進化 : 日比谷本館建て替えによるハードウェア刷新と人材育成強化による ヒューマンウェアの充実をもって当社ブランド力を高める ② 企業としての安定的成長 : 今後のホテル事業を盤石の体制とするため、不動産事業等の拡充により、 収益力・財務基盤の強化を図る ③ 社会的課題の解決 : 当社企業活動の全てについてSDGs貢献度を最大限向上させる		

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

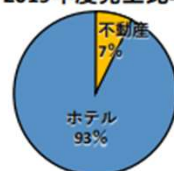
定量目標

フェーズⅠ (2022～2023年度)	コロナの影響は不透明だが、ニューノーマルへの対応や新規事業への積極的な取り組み、費用削減を徹底することで早期の黒字化及び最大限の収益向上を目指す。
フェーズⅡ (2024～2030年度)	現本館単独営業期間はタワー館閉館による一時的な収益力低下が見込まれるが、財務計画に従い建て替え計画を着実に遂行する。
フェーズⅢ (2031～2036年度)	新タワー館・中地区宴会場・ホテル開業後は主に不動産事業の拡充により収益力の大きな向上を目指す。
新本館開業後 (2037年度～)	不動産事業の拡充に加え、価値の向上した新本館の収益力強化により既存施設を上回る収益力を確保する。

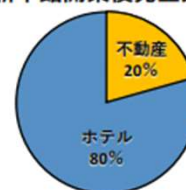
	(参考) 2019年度実績	現本館単独営業	新タワー館・ 中地区宴会場・ホテル営業	新本館開業後
売上目標	545億円	500億円以上	450億円以上	700億円以上
EBITDA目標	61億円	30億円以上	70億円以上	170億円以上

*上記は当社の中長期経営計画上の目標値であり、その実現を保証又は約束するものではありません

2019年度売上比率



新本館開業後売上比率



中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

フェーズⅠ 現行営業期間(2022~2023年度) サービスの最適化・見直しと更なる向上
 ウィズ/アフターコロナ期の外部環境変化への柔軟な対応 ⇒ コロナ禍からの早期回復を目指す

2023年度の主な進捗

1 グランドホテルの進化

重点課題：コロナ禍からの売上早期回復を図る

インバウンド需要を背景とした適切な価格改定、営業活動強化による立食宴会の取り込み等により、ホテル事業は下記のとおり回復いたしました。

	帝国ホテル本社					帝国ホテル大阪						
	2021年度		2022年度		2023年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	実績	対2021	実績	対2021	実績	対2021	実績	対2021	実績	対2021	実績	対2021
宿泊稼働率 ※	26.5%	+29.7pt	56.2%	+38.3pt	64.8%	+33.3pt	16.2%	+15.2pt	31.4%	+48.8pt	49.5%	+33.3pt
宿泊一室単価 (単位：円) ※	43,902	+9%	47,989	+44%	63,058	+22%	23,376	+10%	25,809	+48%	28,442	+22%
宿泊売上 (単位：百万円)	3,582	+90%	6,802	+181%	10,059	+270%	525	+113%	1,117	+48%	1,947	+270%
食堂売上 (単位：百万円)	3,419	+68%	5,751	+87%	6,395	+78%	707	+44%	1,022	+48%	1,257	+78%
宴会売上 (単位：百万円)	5,428	+70%	9,252	+113%	11,555	+105%	1,938	+48%	2,868	+48%	3,966	+105%
ホテル事業計 (単位：百万円)	19,651	+63%	32,029	+102%	39,793	+110%	4,352	+53%	6,645	+53%	9,134	+110%

※ 本社の宿泊稼働率ならびに一室単価にはサービスアパートメントを含めておりません。

※ ホテル事業計の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数字であります。

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

フェーズⅠ 現行営業期間(2022~2023年度) サービスの最適化・見直しと更なる向上
ウィズ/アフターコロナ期の外部環境変化への柔軟な対応 ⇒ コロナ禍からの早期回復を目指す

2023年度の主な進捗

2 企業としての安定的成長

重点課題：新規事業、業態への更なる挑戦（収益力の向上）

- (1) 日本で初めて“バイキング”という食のスタイルを生み出した帝国ホテルのブフェレストラン「インペリアルバイキング サール」。2023年8月1日の開店65周年を機にリニューアルを実施しました。ランチとディナーでは、これまでの上質なフランス料理に加え、帝国ホテル 大阪直営の中国料理「ジャスミンガーデン」監修による中国料理と、四季折々の食材を楽しめる日本料理が新たに登場。
- (2) シャンパンを中心に発泡性飲料をラインアップした新スポット「THE RENDEZ-VOUS AWA」を、2024年3月1日にオープンいたしました。本館正面ロビーの一部という立地の良さを生かし「“集い”の前や後の起点と終点エリア」というコンセプトのもとオープンする、気軽に立ち寄れるシャンパンバーです。



重点課題：東証市場区分再編への対応

- (1) 当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げ、投資家層の拡大と市場流動性の向上を目的に、2023年10月1日を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式の分割を行いました。
- (2) 株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、より多くの皆様に中長期的に保有いただくことを目的に、2024年3月末日より株主優待制度を開始いたしました。

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

フェーズⅠ 現行営業期間(2022~2023年度) サービスの最適化・見直しと更なる向上
ウィズ/アフターコロナ期の外部環境変化への柔軟な対応 ⇒ コロナ禍からの早期回復を目指す

2023年度の主な進捗

3 社会的課題の解決

- (1) 「健康経営優良法人2024(大規模法人部門)」に、2023年度に続き継続認定されました。
- (2) 「プラスチック資源循環促進法」に対応するため、東京・大阪・上高地において、客室アメニティの一部を竹製・木製などへ切り替え、対象12品目のプラスチック使用量を年間(対2019年度比)で約89%削減しました。
- (3) 帝国ホテル 大阪にて、2025年日本国際博覧会協会が主催する参加型プログラム「TEAM EXPO2025-共創チャレンジ」に参画し、留学生支援コンソーシアム大阪(大阪観光局)、留学生の就労を支援するTranscend-Learningと連携し、留学生のインターンシップを実施しています。
- (4) 上高地帝国ホテルが、環境省主催「第11回グッドライフアワード」にて、自然と共存するサステナブルなホテルとして持続可能で高付加価値な観光を支援している点が評価され、『地球と人への想いやり賞』を受賞しました。



その他サステナビリティ推進に関する取り組みにつきましては次ページ以降もご参照ください。

中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

サステナビリティ推進の各目標値と進捗

CO2排出量の削減

直営事業所におけるCO2排出量(Scope 1+2)を、2030年度までに(2013年度比)60%減、2050年度までに実質ゼロとする目標を掲げ、様々な施策を進めています。
さらなる省エネルギー活動の推進、再生可能エネルギーの導入を進めるとともに、再開発時の新ハードウェアへの最新技術導入により、環境負荷軽減に努めます。

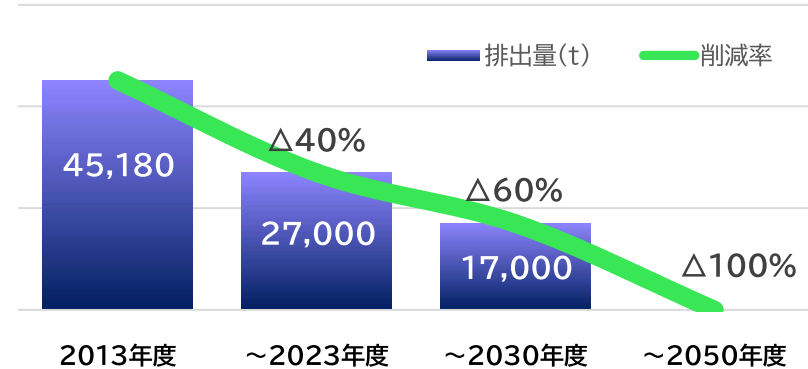
食品ロス削減

当社グループは「おいしく社会を変える」という考えのもと、「食品ロス削減」に力を入れています。食材仕入れの管理の徹底、調理時に食材を無駄なく使用する工夫など、各部門で取り組みを進めています。
なお食品リサイクル法に基づく生ごみ再資源化実施率(直営4事業所合計)は、義務値達成を維持しています。

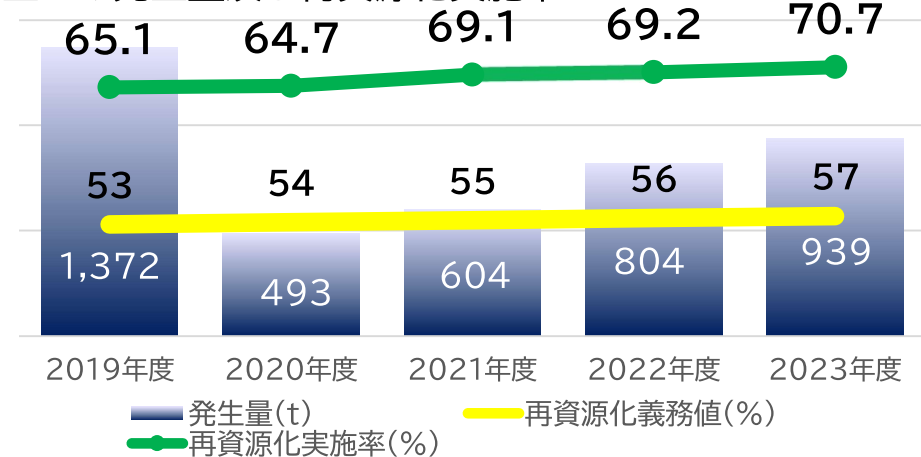
帝国ホテルはSDGs(持続可能な開発目標)を支援しています。



帝国ホテル 脱炭素ロードマップ



生ごみ発生量及び再資源化実施率



中長期経営計画2036



IMPERIAL HOTEL

サステナビリティ推進の各目標値と進捗

人的資本と多様性の推進

当社グループは「人的資本経営」を実現するために、多様な人材の能力の最大化を図り、さまざまな取り組みを進めています。

「人的資本と多様性の推進」における5つのテーマ

- ①多様性を組織の強みにする風土改革(対話の創出)
- ②働き方改革(生産性の向上)
- ③人材育成(人材への投資)
- ④健康経営(個の活性化)
- ⑤多様な人材の活躍
(女性・障がい者・高齢者・グローバル人材の活用)



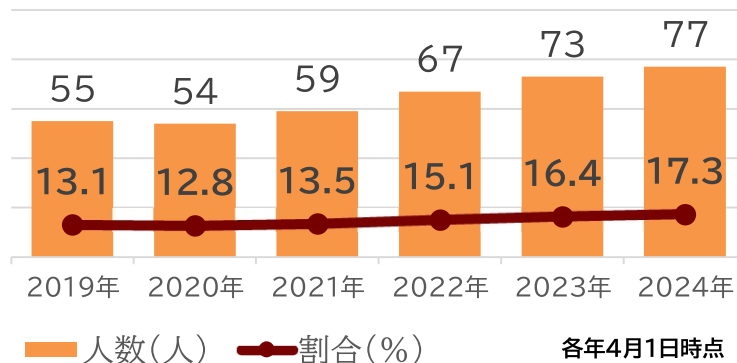
帝国ホテルはSDGs(持続可能な開発目標)を支援しています。



	指標	目標値
育成	無期雇用従業員一人あたりの研修費	2027年度迄に2018年度比+30%
流動性	離職率	2027年度迄に2018年度比△20%
ダイバーシティ	採用した労働者に占める女性労働者割合	毎年50%以上
	男女の平均勤続年数差異	2027年度迄に4年未満
	障がい者雇用率	法定雇用率以上の水準を維持
その他	外国への派遣人数	2027年度には2018年度比+50%

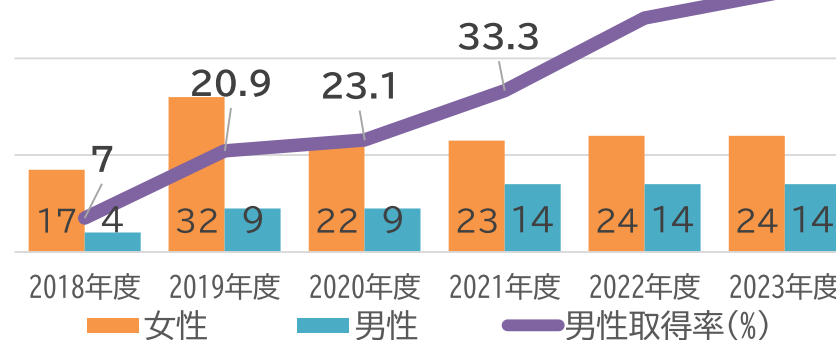
女性管理職者数・割合

目標:2027年4月末までに20%



育児休業者数・取得率

目標:2027年4月末までに50%



女性の取得率は全て100%

中長期経営計画2036

帝国ホテル再開発計画概要①

京都新規事業計画

2021年5月12日、京都・祇園甲部歌舞練場敷地内の弥栄会館の一部を保存活用した新規ホテル計画の実施を決定。

日本を代表する都市・京都を象徴する「祇園」でのホテル計画は、開業時から迎賓館としての役割を担ってきた当社の歴史や企業理念との親和性が高いと判断し、本計画の決定に至った。世界的にも認知度の高い観光都市である京都を新たな拠点に加え、培ってきたノウハウを結集してサービスを提供することにより、日本の代表ホテルとして、また、国際的ベストホテルを目指す企業として更なるブランド力の向上を目的としている。

京都 ホテル情報	
規模	地上7階、地下2階
主要用途	ホテル(約60室)、レストラン・バー、ウェルネス施設、他
竣工時期	2025年10月
開業時期	2026年 春



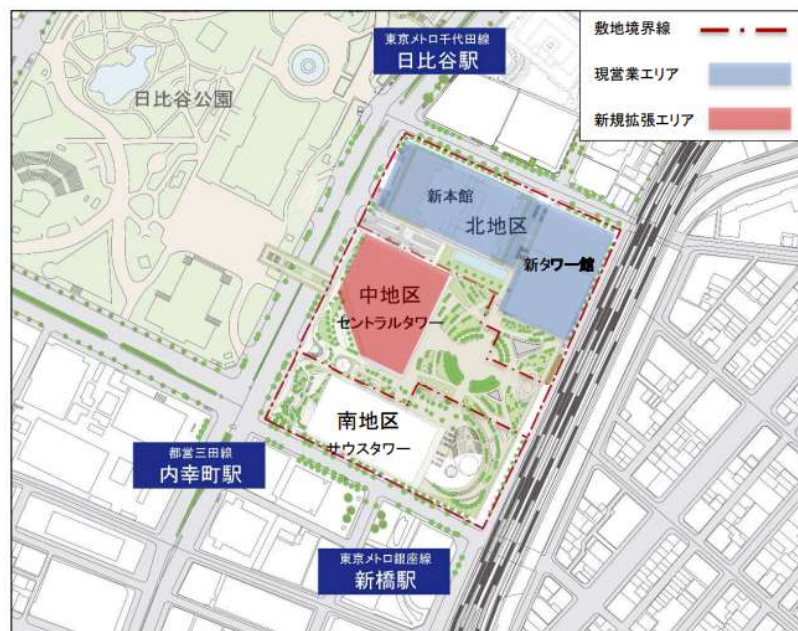
京都 新規ホテル(本棟)完成イメージ

中長期経営計画2036

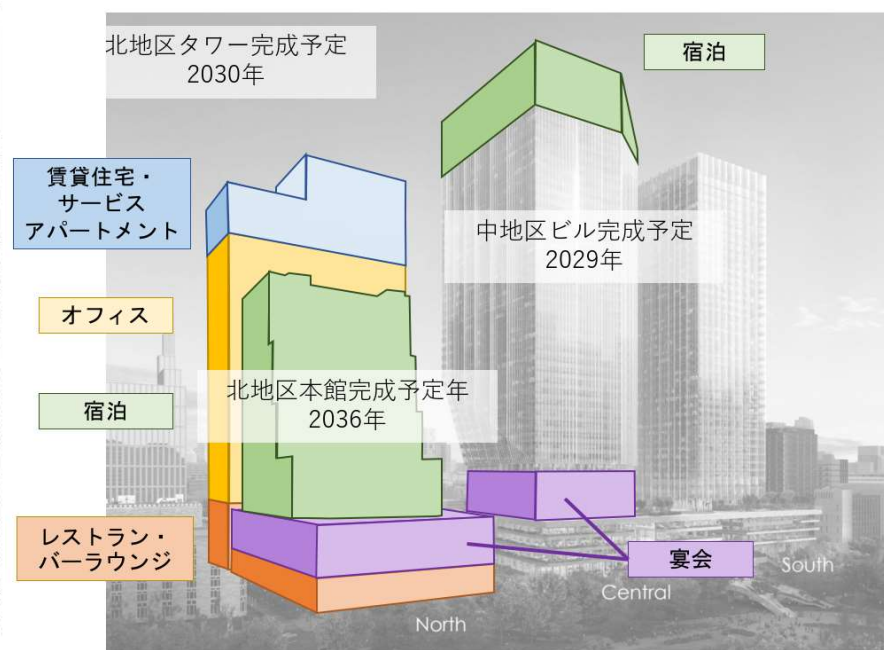
帝国ホテル再開発計画概要②

東京事業所の建て替えを含む「内幸町一丁目街区開発プロジェクト」

2024年から2036年にかけて実施予定の旗艦ホテルである帝国ホテル 東京の建て替え計画において、現在の本館及びタワー館に加え、「TOKYO CROSS PARK構想(内幸町一丁目街区開発プロジェクト)」のパートナーシップによって街区内 中地区に営業エリアを拡張し、帝国ホテルの宴会事業と、新たにホテル事業を展開することで成長的に営業を継続することを決定している。



街区の俯瞰図



■事業環境

今後も、地政学リスクの高まりや原材料、労務費の高騰が継続するものと思われませんが、雇用、所得環境の改善を背景として個人消費や企業収益の回復傾向が続くと予想されます。

■各取り組み

1. 中長期経営計画2036

2024年度から「中長期経営計画2036」のフェーズⅡ（現 本館単独営業期間）を迎えます。フェーズⅡでは、帝国ホテル東京の事業規模の縮小に伴う売上の減少を補うべく、現本館におけるリソースを最適化し、適切な価格設定や効果的な販売促進により売上げと利益の最大化に努めてまいります。

帝国ホテル大阪では2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に伴う賓客や訪日外国人客を迎えるべく万全な態勢を整えるとともに、90周年を迎えた上高地帝国ホテルでは次の100周年に向けてさらなる商品力、サービス力の強化に努めてまいります。

そして、京都新規ホテルについても2026年度の開業に向けて着実に準備を進めるなど「中長期経営計画2036」の実行に全社一丸となって取り組んでまいります。

2. 人的資本への投資

人材を当社の原点と位置づけ、従業員の育成と満足度を高めることでサービスレベルを向上させ、売上げと利益の伸長を図り、その収益を人材や施設への投資に充てるという理想的なサイクルの循環を目指しています。京都新規ホテル、帝国ホテル東京の建替え後に向けて質の高いサービスを未来に伝えていくためにも、人的資本への投資を引き続き推進してまいります。

3. 社会的課題の解決

SDGsへの取り組みにつきましては、引き続きCO2排出量や食品ロスの削減、健康経営や女性活躍の推進などの課題に取り組み、企業収益の確保、持続的成長とともに社会的責任を果たしてまいります。

企業情報

社名：	株式会社帝国ホテル
本社所在地：	東京都千代田区内幸町1-1-1
創立年月日：	1887年(明治20年)12月14日
開業年月日：	1890年(明治23年)11月3日
上場年月日：	1961年(昭和36年)10月2日
代表取締役社長：	定保英弥
資本金：	14億8500万円
発行株数：	118,800,000株(2024年3月31日現在)
従業員数(連結)：	1,758名(2024年3月31日現在)
主要な事業所：	帝国ホテル 東京、帝国ホテル 大阪、上高地帝国ホテル、ザ・クレストホテル柏

主な連結子会社

(株)帝国ホテルエンタープライズ	コミュニティホテル(ザ・クレストホテル柏)運営 等
(株)帝国ホテルサービス	ホテル付帯サービス(清掃・警備) 等
(株)帝国ホテルハイヤー	旅客自動車運送、駐車場管理

関連会社

(株)帝国ホテルキッチン	調理食品製造販売
(株)ニューサービスシステム	バンケットサービス 等



IMPERIAL HOTEL



帝国ホテル 東京



帝国ホテル 大阪



上高地帝国ホテル